

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所属： 人文学部 人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻

名前： 坂根シルック (Sirku Sakane)

作成日：2026年5月28日

教員氏名：坂根シルック

所属：人文学部 人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻

1. はじめに

専任教員として着任した2019年度から、本学のグローバル教育に携わっており、東京において、長年グローバル企業を含む外資系企業で勤務してきた経験を活かし、学生の視野を広げ、世界の多様な文化や習慣、価値観や考え方を知り、自ら考え、行動でき、自分らしい人生の選択ができるよう手助けをしたい、という想いで授業を行っている。

2. 教育の責任

私は人文学科のキャリア・イングリッシュ(CE)専攻に所属しているが、CE専攻の専門科目に加え、共通教育科目も担当しており、他学科や他専攻の学生も教えている。また、2020年度から2025年度までグローバルセンター長として、海外で学びたい学生たちのサポートも行っていた。

(1) 授業科目の担当

■主要授業科目

2026年度は以下の科目を担当している。

*前期

グローバル・スタディーズ	人文学科全専攻1年次(135名)
異文化理解I	CE専攻2年次(30名)
グローバルビジネスI	CE専攻2年次(33名)
グローバルビジネスIII	CE専攻3年次(14名)
プロジェクトデザインII	CE専攻2年次(26名)
卒業研究	CE専攻4年次(7名)

*後期(履修者数は今日現在の登録者数)

グローバル・スタディーズ	心理臨床学科全員(54名)
異文化理解II	CE専攻2年次(32名)
グローバルビジネスII	CE専攻2年次(36名)
プロジェクトデザインI	CE専攻1年次(23名)
エアライン・ツーリズム講座	CE専攻1年次(29名)
特別研究	CE専攻3年次(未定)
卒業研究	CE専攻/4年次(7名)

また、グローバルセンター長を務めていた2023年度から2025年度は上の科目に加え、以下の科目も担当していた。

＊前期

異文化圏体験学修

短期異文化圏体験学修 A

短期異文化圏体験学修 B

＊後期

海外留学 A

海外留学 B

異文化圏体験学修

短期異文化圏体験学修 A

短期異文化圏体験学修 B

(2) 教育組織運営

2023 年度から 2025 年度はグローバルセンター長としてグローバルセンター運営委員会の取りまとめを行っていた他、共通教育部会並びに就職支援委員会の委員を務めていた。

2026 年度はアウトリーチセンターグローバル推進部門、共通教育部会、就職支援委員会並びに自己点検評価委員会の委員を務めている。

3. 教育の理念

これまで長年、多国籍の人々とチームを組んで仕事をしてきた経験から、語学力と同様に、場合によってはそれ以上に必要となるのは、自分と同じように異なる人をも尊重し、相手の文化や習慣を理解しようとする姿勢や意識であると感じる。学生たちが世界や社会の課題にも関心を持ち、自分の専門分野以外にも視野を広げることは、語学を使った仕事に就く場合や、海外との関わりを持つ場合に限ったことではなく、どの学科や専攻で学ぶ学生にとっても、社会に出る前に身に着けるべく大事なスキルだと考える。その為、担当する全ての教科において、次のことを大切にしながら授業を行っている。

(1) 多様性を尊重する

地元出身の学生が多い本学では、価値観や考え方が似通る傾向がある。「こうあるべき」事柄が多い環境で育った学生たちは、容易に異なる意見を発言できないため、自分の意見を述べるのが苦手だと感じる。そのため、どのような場合でも、学生の意見を尊重し、それぞれの持つ個性や感性を大事にしながら一人ひとりと接することを大事にしている。また、授業においては「正解がない」課題に取り組み、学生たちが自分なりの意見を述べ、異なる意見を尊重できる雰囲気づくりを心掛けている。

(2) 一人でできることには限りがある

学生には卒業までに、社会で求められているスキルを養い、即戦力になれる力を身に付けて欲しいと願っている。その為、授業を行う上で、一人で教育するのではなく、社会で活躍されている多職種の方々の力をお借りし、産官学で連携しながら教育を行っている。「グローバ

ル・スタディーズ」、「グローバルビジネス」、「異文化理解」においても、地元の企業や行政の方々などの協力を仰ぎ、また本学の他学科・専攻とも連携しながら、社会のニーズに応えられるような授業を実施し、グローバルな感覚を持ちながら、地元熊本に貢献できるグローバル人材を育てたい。

(3) 自己理解・他者理解

異文化間での交わりには様々な課題が発生する。それは海外に限ったことではなく、国内でも同じだ。そして多くの課題は人間関係に関係する。その為、自己と他者の様々な違いについて学び、自分がどのような人なのかを知った上で、他者を受け入れることが大切になる。自分のアイデンティティを大切にしながら、自分と異なる相手とコミュニケーションできる力を身に付けられるよう、様々な課題をチャンスだと捉え、理解を深めることを心掛けている。

4. 教育の方法

グローバル化する環境に適応できるよう、異文化理解、多様性、考える力、自らの意見を発信する力、コミュニケーション力、積極性を養いながら、自己理解・他者理解を深め、自分と異なる考え方や価値観に気づき、尊重できることを目的に、グループワークや調べ学習など、アクティブラーニングを中心とした講義を実施している。また、様々な分野で活躍している方々をゲストティーチャーとして招き、世界や社会の現状を学べるよう工夫している他、多くの企業に協力いただき、体験学修やインターンシップを実施している他、課外活動としても産学連携活動を行っている。

(1) グループワークやペアワーク

全ての授業において、学生の主体的学修や互いに学び合うことを目的に、グループワークやペアワークを取り入れ、異なる意見や視点をシェアし、学び合いができる授業を心掛けている。また、少人数の科目においてはグループや一人でのプレゼンテーションも取り入れ、自らの意見を述べる機会を作っている。

(2) 調べ学習

必修科目以外の科目において、一人で、又はグループでの調べ学習を取り入れ、調べたことをパワー発表し、ディスカッションを行い、お互いに調べたことから学び合う機会としている。

(3) 外部講師による講義

「グローバル・スタディーズ」、「グローバルビジネス I~III」、「エアライン・ツーリズム講座」の授業において、多職種の講師を招聘し、より多角的な学びができる授業を実施している。

5. 教育改善のための努力

常により良い授業づくりができるよう、学生たちが満足してくれている教育内容や方法は引き続き取り入れ、授業中の様子などから、改善が求められると感じられることに関しては、新たな方法を取り入れ、工夫している。また、自分も向上し続けられるよう、前期と後期で内容が同じ授業でも、少しずつ更新や改善を行い、より良い内容になるよう工夫している。

(1) 学生の声を授業に反映させる

毎回の授業の課題で学生からの質問などを受け付け、次回の授業の初めに回答している。時には学生がディスカッションしたいテーマを募集し、全員で意見交換している。授業のテーマに合った内容で、学生たちが興味関心あることについて全員で考えることで、より関心を持ってもらえていると思う。

(2) 生涯学習

学外で協力させていただいている様々な活動（非常勤理事・評議員・講演活動など）を自らの生涯学習の一環とし、得られた学びや知識を授業内で活かしている。

6. 教育の成果・評価

毎学期後に実施される授業評価アンケートでは概ね平均値を上回る評価を得ている。また、授業で招いた企業の方の話を聞いたことで学生がその企業に就職しているケースが複数あるほか、学生に異文化体験プログラムへの参加を勧めたことが学生の卒業後の進路に大きく影響したケースも複数ある。

7. 今後の教育に関する課題と目標

世の中の変化を敏感に察知でき、社会で求められているスキルや知識を学生たちが養えるよう、私自身が常にアンテナを張り、新たな取り組みや面白いビジネスなどを行っている人や企業・団体について調べるようにしている。また、そのような人たちに積極的にコンタクトを取り、話を聞き、講師として招き、彼らと一緒に学生たちを育てたい、と思っている。担当する授業を通して、世の中には私たちも知らない仕事やビジネスがたくさんあって、長い人生の中で選択し、挑戦できることもたくさんある、ということを学生たちに伝えたい。そして、人生には「成功」も「失敗」もなく、何度でもやり直すことができる、ということも。そのため、学生たちが自分を受け入れ、様々なことに興味を持ち、視野を広げ、多様な人々と関わりながら成長できるような授業を心掛けている。